

お釈迦さまには「ブツダ」や「世尊^{せそん}」など、さまざまな尊^{そんじょう}称があります。

そのなかで、お釈迦さまを尊^{とうと}び「釈迦如来」とお呼びしますが、この「如来」という言葉は、もとはインドの言葉で「タターガタ」といいます。

「タター」は「そのように」という意味で、転^{てん}じてお釈迦さまが真理を真実として観察されたありのままの様子を指します。「ガタ」とは、「行く」という動詞の活用形で、「行った」という意味です。

この、「タター」と「ガタ」を繋げた「タターガタ」は、“真理を見つめ、真実として観察され、お悟りの世界へ行かれた方”という意味になり、お悟りをひらかれた仏様に向けられる尊称の一つとされました。

真理を見つめ、お悟りをひらかれたお釈迦さまの後ろ姿は、あとに続く弟子たちにとって、自分たちの目指すべき道を示す大きな背中であったことでしょう。

一方、漢字では「タターガタ」は「如来」と訳されます。「如来」は、「そのように」という意味の「如」に「来る」と書きます。

これは、“真理に行った”という意味の「タターガタ」が、漢字で「如来」となる時、“真理の世界から来た”という意味になり、真理を見つめられたお釈迦さまが、私たちの目の前に現れ、私たちに向き合う仏様となります。

この「如来」という尊称によって、教えを求めるより多くの人に向かって、慈しみ^{きわだ}の心からその教えを私たち一人一人にもたらしてくれる仏様の姿が一層際立つのです。

そして、私たちが仏様と向き合う場所といえば、お寺に他なりません。そこで出会う仏様は、皆、私たちの方を向き、私たちと向き合ってくださいています。「お寺に行くと何だか気持ちが落ち着く」という方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。慈^{いつく}しみにあふれる仏様のお顔を見ているだけでも、私たちはいつの間にか心^{おだ}が穏やかに感じていくように感じます。

秋が深まるにつれ、外出にも適した季節となりました。

「如来」として私たちを迎えてくれる仏様に出会いに、お寺に出かけてみませんか？